「この人 63」

有冨洋二 62歳 山口県

編集部　俳句を始められたのは？

有　冨　七、八年前、松山支社に転勤になりました折、俳句入門についての講演に参加したことがきっかけです。それが、八木会長との出会いになり、滑稽俳句を始めるきっかけにもなりました。

編集部　滑稽俳句の魅力とは？

有　冨　もとから、ユーモアというものについては高く関心を持っています。俳句にユーモアの味付けをどのように加えるか、そこに知識と能力を求められるところです。

編集部　俳句における「滑稽」とは？

有　冨　もしも雅と俗を隔てる塀があるとするならば、その塀の上をどちらにも落下せずに歩いてゆくようなもの。俳句における滑稽とは、人々の営みの中から安堵を発見することであり、また時には、冷静に批判することだと思います。

編集部　滑稽俳句を続けていて良かったことは？

有　冨　作句ではいつも苦心しているので、古典から現代を問わず良い滑稽句に出合ったとき、しみじみとその句を味わえることです。

編集部　滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

有　冨　見過ごしがちな日常の事がらでも、一歩立ち止まり、見つめ直して面白さを発見すること。そして、日々たくさんの俳句に触れて表現力を培うことですね。

【代表句】

初日の出倍の力で街照らす
芭蕉より選句さずかる大朝寝
花びらを本膳にして酌み合へり
一張羅つらぬき通す案山子かな
閑人もつられて急ぐ師走かな

掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。